



医療、介護 福祉活動)の安全確保について

社会福祉法人 りんさく福祉会

理事長 須田 渥

第 17 号
平成 17 年
4 月 発行

現在の高度化された医療、また日常の診療活動、そして介護という面で深いつながりを持つ医療、介護（福祉活動）の現場にあって、それぞれに携わるもの一人一人に、安全を確保することの確認と実践が今改めて問われています。

この医療、介護の安全の礎は、対象者に直接的また間接的に関わる全ての人達の人間愛と職業的また専門的また専門的集団が織り成す崇高な医療、介護行為にあります。

また、一方、医療、介護の安全は、それらを受ける方々一人ひとりの理解と協力、そして家族、更には社会の大きな支援も不可欠であります。

福島県医師会は、平成十三年五月十五日医療安全対策委員会を設置し、平成十三年九月には福島県医師会「医療安全宣言」を行いました。

『私たちは医の倫理にもとづき、良質な医療を提供し、患者さんと共に、安全な医療を確保することにつとめます』というものであります。

（医）あさうら会 須田医院も、その趣旨に則り医療安全を確保するための具体的「医療安全ガイドライン」をまとめました。それらを熟知すると共に日々安全医療を心がけるために、当院での毎朝のミーティングに次のようなモットーを唱和しています（常識的なものですが）。

須田医院のモットー

患者さんに親切にしましょう。

患者さんの訴えを素直に聞きましょう。

患者さんのお薬、注射、検査について安全確認を実行しましょう。

介護福祉活動においても安全対策は当然の事ながら大事なことであります。

（社福）りんさく福祉会の事業である介護老人福祉施設「望洋荘」でも入所者の安全

対策のマニュアルを作成し、住みよい環境作りに努力しています。「望洋荘」では次のような憲章を作成し職員に徹底しているところです

望洋荘憲章

1, 望洋荘の基本理念

私たち望洋荘は、「家庭主義」をモットーとした基本理念で、利用者のご満足と笑顔を励みに努めます。

2, 利用者の生活の質の向上

望洋荘で働く私たちは、利用者一人ひとりのニーズと意思を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努めます。

3, 公平・公正な施設運営の遵守

望洋荘で働く私たちは、利用者の生活と人権を擁護するため、自己点検を強化し、公平・公正な開かれた施設運営に努めます。

4, 従事者の資質・専門性の向上

望洋荘で働く私たちは、常に誠意をもって質の高いサービスが提供できるよう、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めます。

5, 国際的な視野での活動

望洋荘で働く私たちは、諸外国との交流を促進し国際的視野にたち、相互の理解を深め、高齢福祉の進展に努めます。

さらに、「望洋荘」の組織の中で、サービス向上委員会は、右記の憲章を基本理念とし、みずから戒めて日常介護にあたるとともに、より一層、専門職としての心を持ち、入所者との信頼関係を維持することに心がけるよう職員一同に指導しています。

また各ユニットには次の様な挨拶文を掲げています。

『利用者の皆様、そしてご家族の皆様へ、ようこそ望洋荘へ。

望洋荘の施設へ入居された皆様は、よりよい介護・食事・サービスを受ける権利がございますのでお気づきの点がございましたら、お気軽にご連絡下さい。』

以上の言葉を基本にして、医療、介護の安全管理、事故防止の徹底を図るための、研修を怠らないことと共に、温かい優しい心を持ち続けることが極めて大事であることを自覚する事だと思っています。

『花見』満開のさくらに満喫

今年の花見は大成功。今年は桜の咲き出しが昨年より二週間も遅く、でもいっ
きに咲き始めました。今年は小島公園へユニット毎に行き事に決定。四月十五日
午前薄磯ユニット、十六日午前に豊間ユニット、十七日午前に永崎・四倉ユニ
ット、午後に勿来ユニットと三日間の四回に別れて実施致しました。

花は咲き出したら散るのも早いもの。十五日には満開、十六日には散り始め、
十七日には花吹雪と目を楽しませてくれました。おやつはお茶とお菓子とささや
かでしたが外へ出た開放感と春の風の爽やかさの中、おいしく食べて公園内と新
川の土堤の散策、遊園地のブランコに乗り子供に返って遊んでの一日でした。



なにを見ての会話かな？。



親子？・・・恋人？・・・。



仲の良いご夫婦です。



外の風は冷たかった。



1回2回と楽しそう・・・。



ほんとうに満開です。

施設に於いて個人情報の利用目的

介護老人福祉施設 望洋荘
施設長 吉田 裕子

利用目的の範囲

① 本人のサービ
ス提供に必要
な利用目的

- 施設の内部での利用に係る事例
介護サービスの利用者等に提供する介護サービス
・介護保険事務
・管理運営業務
「入退所等の管理」
「会計・経理」
「事故等の内部報告」
「当該利用者の福祉サービスの向上」
・広報紙の作成

- 他の事業所への情報提供を伴う事例
・当該事業者が利用者等に提供するサービス
「他の事業者等との連携」
「他の事業者等からの照会への回答」
「外部の者の意見・助言を求める場合」
「その他の業務委託」
「家族等への心身の状況説明」
・介護保険事務
「審査支払機関へのレセプトの提出」
「審査支払機関又は保険者からの紹介への回答」
・損害賠償保険などに係る保険会社等への相談又は届け出等
・広報紙の配布

② 上記外の利用
目的

- 施設の内部での利用に係る事例
・介護関係事業者の管理運営業務
「介護サービスや業務の維持・改善の為の基本資料」
「介護保険施設等において行われるボランティア活動、学生の実習への協力」

施設での個人情報取扱いについて



平成十七年五月二十三日(月)
午後六時三〇分開演
橘屋 富蔵 師匠独演会
いわき市文化センター

ご家族、お友達お誘いの上おいで下さい
一笑門には福来るといいます。
笑いは家族円満一

本 名

高橋 英義(たかはし ひでよし)

出身地

北海道常呂町

芸 歴

昭和54年4月 月の家門鏡(現八代目橘家圓蔵)に入門

昭和55年6月 前座となる 芸名 月の家杵助

昭和58年3月 二つ目昇進 橘家外蔵と改名

平成7年3月 真打ち昇進 橘家富蔵と改名

「富」の一字は福富太郎氏より頂く

趣 味

野球 スキー、スケート、ゴルフ、乗馬、油絵、車、4級小型船舶操縦

自己PR

「富蔵(ふっくら)寄席」年2回 全国「ひでよし会」会長

第九十二回 いわき寄席の案内

社)日本WHO福島支部設立について

社)日本WHO福島支部

支部長 須田 混

一九四六年に調印されました世界保健機構（WHO）憲章の前文に「健康とは、完全な肉体的、精神的及び社会的福祉（安寧）の状態であり、単に疫病又は病弱の存在しないことではない」と唱えられております。そして、一九四八年四月にはこの憲章の効力が発生し、人類の健康の向上増進を目的とした国際的なNGO機関としての世界保健機構（WHO）が誕生しました。

日本WHO協会はWHO憲章の精神を普及、事業目的達成に協力し、わが国の健康増進に寄与することを目的として一九六五年に設立。本部を京都に支部を東京、と関西において、主として治療医学の視点から活動を行ってきましたが、近年、これに予防医学や環境の視点も加えた活動を行うようになってきました。そして、地域の健康増進に役立つ活動を展開する必要があると認識し、二〇〇一年から全国的に活動拠点を設置しようという動きがでてきました。

このような動きのなかで、有志に呼びかけて二〇〇二年十二月九日に全国十番目の支部として本部の承認を得て福島支部を設立いたしました。支部としての本格的な活動は、これから県内各地の皆様方のご賛同を得て、会員数の増加を図りながら展開していきたいと考えております。活動について県内の多くの人に知ってもらうためには、県内各地で地域の事情に応じた取り組みをすることが望ましいと考え、福島支部では、健康フォーラム（三〇〇〜四〇〇名規模）を年一回開催するほかに、各地区毎に年一〜二回健康講話を開催（五〇〜六〇名規模）することにしました。

二〇〇三年三月一日にはいわき市において『福島支部設立記念健康フォーラム』を開催し、坪井栄孝前日本医師会会長から「がんの予防について」、

比嘉照夫琉球大学教授からは「微生物の世界から見た環境と健康」と題しての記念講演と、地元の先生方によるパネルディスカッションを「食と健康について」というテーマで行いました。また、同年十二月六日には、いわき市総合保健福祉センターにおいて、健康講話を開催しました。メインテーマを「あなたを救う予防接種」とし、地元の専門医に「感染症とその予防について」と、「インフルエンザとその類似疾患について」の講演をしていただきました。

そして、二〇〇四年三月六日には、『WHO健康フォーラムin福島』を福島市において開催し、WHO循環器疾患予防国際共同研究センター長、家守幸男先生による「食環境と健康」という演題で講演をしていただきました。当日は二〇〇名近い参加があり、家守先生の話を熱心に拝聴なさっていました。先生からは世界中を歩いて研究された成果について、スライドを用いて非常にわかりやすくお話をしていただきました。特に、日本食の若干のデメリットを改めれば世界の長寿食に最も近く、循環器疾患をはじめとする「生活習慣病」を克服して健やかな長寿を実現する「王道」であるということをお話していただきました。更に、在仏中のWHO名誉事務局長の中嶋宏先生が来日されるのを機に、福島市において、二〇〇四年十月七日に「健康講話」として「長寿の礎―究極のガン予防から、ガンで死なない」と題してガンの予知予防にわたっての長年の研究成果を発表していただきました。後半に先生がお話されたWHOの健康定義を新しく見直そうという提案、即ち、精神的霊的な健康(spiritual health)についても言及されあらためて健康とは何ぞやと考えさせられた会でした。

福島支部では、今のところ数少ない会員ではありますが、地道な活動を積み重ねる中で一步一步前進していきたいと考えております。同窓生諸氏におかれましては、支部設立趣旨につきましてご理解をいただき、今後ともいろいろとご支援ご協力をいただきたくお願い申し上げます。

「福島県立医科大学医学部同窓会報」光が丘「三十四号」

平成十七年二月発刊への寄稿文から

介護老人福祉施設 『望洋荘』
職員紹介①⑦ & コメント集



介護士 永沢 幸一

入社して四カ月が無事過ぎ桜咲く春を迎えました。先輩の方々のご指導のお陰と深く感謝をしております。今では、ご利用者様とのコミュニケーションが何よりの楽しみとなりました。常に「優しさ」と「思いやり」の心を忘れずに日々、今日より明日と向学の精神をもって、仕事にがんばってまいります。最後に私の好きな言葉です。文豪ゲーテ曰く「よろこびをもって仕事をし、成し遂げた仕事をよろこべる者は幸福である。」



介護士 小泉 真人

望洋荘で働き始めて、四カ月が経ちました。初めは利用者様と、どう接していいのかなど色々戸惑う事ばかりでしたが、優しい先輩方のアドバイスにより、日々勉強させて貰っています。自分の言葉や行動が利用者様の笑顔の源になると僕は思っています。又、利用者様から「ありがとう」と言われるとこちらも笑顔になります。これから先も一生懸命、利用者様の笑顔のために頑張っていきたいと思っています。

『望洋荘』に住んでみて 第四話

『望洋荘』の各部門の内部の紹介をします。今月は「豊間海岸通り」です。

居室部門（ユニット） 豊間海岸通り二丁目には二、三、五番地の四つの居室があり、ほかにホールを中心にして、他に二、三、五丁目と命名された居住地区があります。ここには十六名の方々が支援する職員とともに住んでいる共同体です。



豊間海岸通りへは、正面玄関より事務所前を左へ曲がり、医務室前を通って左側の階段を昇り右へ曲がり突き当たりのユニットです。正面を入りますと、左側の壁には書道・折り紙などが飾られています。その先にホールがあり、ここは普段入居者様が過ごされている場所です。ディルムには大型テレビがあり、この前に椅子を並べテレビを観ています。ディルムからは太平洋と中庭を見ることが出来ます。今、海を望むと手前の森に桜が咲き揃い海と桜が調和してとても綺麗です。

利用者は十六名全員女性であり、その内七名の方は自立（歩行・トイレが自力で可能）しています。最高齢九十七歳・最小齢七十七歳の平均八十七・七歳です。

特徴としては歌が好きな利用者が多く歌を中心としたレクリエーションを行っています。また、生け花

が好きな方も多く月二回の生け花教室にも多くの方が参加しています。壁面には、書道・折り紙の作品などが飾られ女性のみユニットだけに、清楚な雰囲気ユニットです。時代劇をこよなく愛し利用者の多くが、午前十時頃の時間になると自然にテレビの前に集まりお茶を飲みながら「遠山の金さん」・「暴れん坊将軍」などを観ています。



豊間ユニット職員は現在7名（男性4名・女性3名）で構成されており、入居者様が日々楽しんでいただける様工夫を凝らしています。（写真は先日行われた【つり大会】の様です）

今月の言葉その⑮（倫理研究所標準語集から）

心の通りに境遇が変わる

ある事業家は言った、「恵まれるから感謝するのではない、感謝するから恵まれる」と。嘆いているから嘆きの神様が近づき、喜んでいいるから喜びの神様が近づいてくる。

編集後記

『望洋荘』便り

平成十七年四月一日発行

発行所 いわき市

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373

FAX (0246) 55-7255

〒319-0246 福島県いわき市平野町三十九番地